

第8回教育委員会臨時会議事要録

詳細—教育部庶務課 電話03-3981-1141

附属機関又は 会議体の名称	第8回教育委員会臨時会議事要録	
事務局（担当課）	教育部庶務課	
開催日時	令和5年8月9日 午前10時10分	
開催場所	教育委員会室	
出席者	委員	金子 智雄（教育長）、 樋口 郁代（教育長職務代理者）、酒井 朗、村瀬 愛、大澤 誠
	その他	教育部長、庶務課長、教育施策推進担当課長、学務課長、放課後対策課長、学校施設課長、指導課長、教育センター所長
	事務局	庶務課庶務グループ係長、庶務課庶務グループ係員
公開の可否	一部公開 傍聴人 24人	
非公開・一部公開 の場合は、その理由		
会議次第	第36号議案 豊島区立学校教科図書採択について（指導課）	

休憩時間：00：00

終了時間：11：42

第8回教育委員会臨時会議事要録

開催日 令和5年8月9日
開催場所 教育委員会室

事務局)

皆様おそろいでございます。

本日、傍聴者は24名いらっしゃいますので、宜しくお願いいたします。

金子教育長)

おはようございます。昨日に引き続き教育委員会をお願いいたします。第8回教育委員会臨時会を開始いたします。

本日の署名委員をお願いいたします。大澤委員、樋口委員、宜しくお願いいたします。

本日の傍聴は24名ということでございます。宜しいでしょうか。

(委員全員了承)

金子教育長)

では、お入りください。

<傍聴者入場>

金子教育長)

それでは、事務局より傍聴者の皆様へ注意事項をお伝えください。

庶務課長。

<庶務課長 注意事項説明>

(1) 第36号議案 豊島区立学校教科用図書採択について

金子教育長)

昨日の審議に引き続きまして、令和6年度から使用いたします小学校教科書の審議を行います。それでは、まず図画工作の選定資料について、事務局よりご説明をお願いします。

指導課長。

<指導課長 資料説明>

金子教育長)

ご説明ありがとうございました。

それでは、質疑応答の前に閲覧をお願いします。3分程度とさせていただきます。宜しくお願いいたします。

<教科書閲覧>

金子教育長)

質疑に入りたいと思います。宜しいでしょうか。

ご質問、ご意見がございましたらお願いいたします。

村瀬委員。

村瀬委員)

図画工作、感性と想像力を働かせることが大事ですが、どの出版社の本も、とても良く、引き込まれました。それぞれしっかりと目当てが書いてあり、見やすいですが、さらに工夫してくださると良いと思いました。

QRコードもついていて、のりの使い方などは、実際にのりを使っている人を見る方が分かりやすいと思いました。豊島区は恵まれていて、タブレットを家に持って帰ることが出来ます。家にWi-Fi環境がなくても見ることが出来るので、外国のお子様も多いですし、動画でしっかり見て分かるというのはすばらしいと思いました。めあてがしっかりして、子供自身が見て分かりやすい方を選ぼうと思っています。

金子教育長)

他にございますか。

どうぞ、樋口委員。

樋口委員)

本区はアート・カルチャー都市ということで、音楽や図工へのいざないを幼児期から、それぞれの発達段階においてしていくというように私は認識をしているところです。両方を見せていただきましたが、必要な内容はお互いにきちんと網羅されています。私も村瀬委員ご指摘のとおり、めあてが分かりやすい、子供目線で分かりやすい方が、取り組みたいという気持ちが広がると思っています。

やはり図画工作は色彩が非常に重要であろうと考えておきまして、カラーユニバーサルデザインの視点から言うと、やはり茶色同士が重なっていたら、これは見にくいですし、黒の上に赤があるところの配慮など、両方ともしていただいておりますが、色が薄いのか濃いかということではなくて、それぞれ今日立たせたいところについての色の配合などを考えた上でしているものを選びたいと思いました。

金子教育長)

他にご意見がないようですので、投票をしたいと思います。図画工作につきまして、お手元の色刷りの投票用紙での投票をお願いいたします。

<委員投票、確認>

金子教育長)

只今ご確認いただきました通り、過半数を超えるものがございましたので、これで、図画工作についての審議を終了いたします。

教科書を入れ替えますので、少々お待ちください。

宜しいですか。それでは、次、理科の審査に入ります。理科の選定資料につきまして、まず、事務局よりご説明をお願いします。

指導課長、どうぞ。

<指導課長 資料説明>

金子教育長)

質疑に入ります前に、閲覧をお願いします。時間は8分程取りたいと思います。宜しくお願いします。

<教科書閲覧>

金子教育長)

宜しければ、そろそろ質疑に入りたいと思います。

それでは、ここで委員の皆さんから、ご意見、ご質問をいただきたいと思います。お願いします。

樋口委員、お願いします。

樋口委員)

3年生になって初めて理科と社会になります。そうしたときに、理科への興味関心をどのように高めていくかということが大事だと思うのですが、その原動力は、やはり「どうしてなの。」とか、「何故。」「不思議だな。」「こんなことに気がついたんだけど調べてみたいな。」という思いを大事にして、どのように調べたらいいのかとか、どのように実験を試みたらいいのだろうかという見通しを持ちながら計画をしている場面。

もう一つ、重要な場面は、先程、課長からのお話にもありましたように、実験や観察を行ったら、自分たちはこういう結果を得た。でも、他の班は違うかもしれない。結果から考察をする、というところが非常に重要であろうと思います。残念ながら本区の理科の学力調査結果は毎回芳しくありませんでした。私はこの考察の場面をもっとしっかりと、もちろん、先生方もやってくださっているとは思いますが、少し特化してでもいいくらいに考察の場面を、自分たちの結果からはこういうことが言える。しかし、同じグループで話し合いをしたら見方は違うという会話をしながらやっていただけたらと思います。

これは3年生、4年生としっかりと身につけていけば、5年、6年で子供たちは自発的にそのような見方をしていくのではないかと思います。したがって、先程来申し上げたように、見通しをもって計画をする場面と、とりわけ考察をして、そこについて、自分たちで多角的に分析を試みようという場面を大事にしたいと思っています。

例を出します。これは4年生の天気による気温の変化が違うというところです。その前に、こちらは理科の学び方として、6ページ、問題をもって観察や実験をします。結果から考えようというところではありますが、ここの部分が少し弱いような気がしています。結論を出すというのは、考察をした後に、ここから分かったことというところで来るところだと思います。

では、具体例として、先程来お話ししたように、「問い」があります。どのようにして問いを見つけていくのかというところは、この見開きのページで少し時間帯となども違って、見つけさせようとしているところは良いと思います。そして、問題があつて、観察をし、観察から考えているところではありますが、この程度でありました。それが教育出版でした。

もう一つは、大日本図書です。ここは理科の学び方のところで、考察を非常に強調して、学び方の中でも「ここは大事です。」というところがすぐに分かります。この部分を、見開きのページで違う絵を出して、問いを大事にしているところがあります。私はこのような提示の仕方、時間の関係上、二つしか出していませんが、とても良いと思っています。「どこが不思議なんだろう。」「どこが違うんだろう。」というところを、子供自身が発見するような扉のページというのは非常に良いと思っています。そして、予想をして計画を立てるというところも非常に手厚く準備をされているので、子供たちが話し合いながら自分の疑問を出しているということも分かります。そして、自分たちが観察した結果を基に考えようというところで、じっくり考えさせていることが分かります。そこから分かったことというようにして、確かめたり学んだことをさらに生活の中に生かしてみたりということで、非常に学び方が分かりやすいと思いました。私は大日本図書を評価したいと思っています。

金子教育長)

他にございますでしょうか。

どうぞ、酒井委員。

酒井委員)

どの教科書も学習の進め方は非常に丁寧に書かれていまして、どの教科書でも理科の各単元の授業がきちんと展開出来ると思えました。幾つか、非常に水準の高いところで比べるという形だと思えます。私は、生活科との繋がりが、これはどの教科書も強くありませんが、社会科と比べますと生活科との繋がりが全体的に弱いということを感じたところです。

実験の分かりやすさを見比べてみた場合に、燃焼の実験を比べてみましたが、私も大日本図書が一番分かりやすいと思えました。

もう一つ気になっていましてのは、キャラクターがかなり教科書のいろいろなところに出てきますが、キャラクターがしゃべり過ぎるとというのが少し気になります。考察を子供たちにさせたいのですが、キャラクターが考察し過ぎているので、授業として、これを投げかけて子供に考えさせることを、キャラクターが言っていることを見て発言してしまうのではないかと気になりました。子供たちに考えさせるということを仕掛ける仕組みというのも、もう少し考えなければいけないのではないかともし思いました。

金子教育長)

他にございますか。

では、ないようですので、投票に参りたいと思います。お手元の投票用紙で投票の方をお願いいたします。

< 委員投票、確認 >

金子教育長)

只今、ご確認いただきました通りで、過半数を超えるものがございましたので、これで

理科についての審議を終了いたします。

それでは、続いて、生活科の選定資料について説明をお願いいたします。その前に、教科書の入替えをいたします。少々お待ちください。

では、準備出来たようですので、生活の選定資料について、事務局よりご説明をお願いいたします。

指導課長。

<指導課長 資料説明>

金子教育長)

ご説明ありがとうございます。

それでは、閲覧に入ります。宜しくお願い致します。

<教科書閲覧>

金子教育長)

宜しければ、各委員より、ご意見等を伺いたいと思います。お願いします。

樋口委員、お願いします。

樋口委員)

どの教科でも申し上げているとおり、児童の気づきというのが、とりわけ生活科では大事だろうと思っています。その気づいたこと、不思議だと思ったことを基にして、価値ある体験活動をして、それを通して自分の感情とか思考とか態度とかをしっかりと振り返ることが出来て、その振り返りによって自分の成長を確かめていく、そういう教科だろうと思っています。

そうしたときに、1年生の一番初めの、いわゆる幼児、保育園や幼稚園で生活をしてきた幼児たちが、1年生、学校で楽しいなという取っかかりをしていくのが、この生活科の部分は結構大きいのではないかと感じております。

幼保の連携というところから申し上げますと、例えば多くのところはスタートカリキュラム的のところがあって、学校生活のいろいろな場面が出てきています。とてもすてきな作り方をしていると思います。一方で、自分で発見させたいのに、すでに言葉として表記されて、「仲よくなりたい。」とか、「きちんと畳むよ。」など、自分の気づきよりも先に、こうすると良いよということが少し出過ぎているのではないかというのは私が感じたところでは。

それに対して、私は幼保の接続というのは、そういうスタートのカリキュラムのページで示すということがあるかもしれませんが、幼稚園や保育園にお邪魔したときに、絵本をたいへん大事にしているのを見かけます。絵本を読むと、絵本を読みながら子供が「えっ、ここって不思議。」とか「これはどうして目がこんなに違うの。」とか、本当に無意識のうちにかくさんの不思議なこととか発見したことを、先生や親御さんに言っている姿がよく見られます。それを大事にして、生活科に繋がたいというように私は思いました。それは、このページを見たときにそう思いました。

確かに1年生のページというような言い方では全くなくて、気づかせているページです。「1年生が始まるよ。」という声かけだけがあって。でも、「学校にはどんな人がいるんだろう。」「いや、学校だけじゃない、地域の人もあるな、お家の人もあるな。」など、いろいろなことを気づかせて、まさに一人ひとりの個性を大事にするという教育がこういうところから始まるというのは、非常に気づきを大事にしていらっしゃると思います。これを基にして、実際の教室の場面でどんなことが出来るかという疑問詞、疑問符になっていて、自分が発見したことを自分の言葉で子供は言おうとしているという作りになっています。

私はこういう気づきを自分で言ってみる、自分の言える範囲で言ってみる。それは、本区は一人ひとりを大切にされた教育ということを基本方針に掲げていますが、私もこれからはそういうことが必要なのではないかと考えています。このイラストは、絵本作家の、大変人気のあるヨシタケさんのものであると後ろに書いてありましたが、このイラストは、私は面白い描き方をしていらっしゃると思いました。

と申しますのも、これで縦横が一緒になっているということではなくて、むしろ差別化をしているのではないか、区別化をしているのではないかと考えたのと、例えば73ページのイラストです。この中には、上手く出来ないような様子が描いてあります。インタビューしているみたいです。インタビューの練習をします。「今日の晩ご飯は何ですか。」などというところから始まって、「どうですか。上手くインタビュー出来そうですか。」「はい。えーと、何を聞くんだっけ。」、つまり上手くいかないとか、少し失敗しているようなことが結構入っています。やってみたが、上手くいくことばかりではないわけですから、こういうことがまた一人ひとりの気づきにも繋がっていくと思って、私は紙面の使い方がむしろ上手だと思いました。これが、光村図書でした。

ですから、大切な気づきをどのように子供自身の言葉で考えさせているかというところと、それから振り返りを、ここは少し各社大分違いますが、自分の成長を最終的には認めたいところですから、振り返りがしっかりと感情の面と思考の面からアプローチしていると、そういうところを評価していきたいと思いました。

金子教育長)

他にございますでしょうか。宜しいですか。

酒井委員。

酒井委員)

樋口委員がおっしゃった、気づきを促すということ、非常に大事だと思っております、先程の理科のところ、やはり本区、理科が少し弱いところがありまして、先程も申し上げたように、生活科と理科はやはり繋がっているものだと思います。そうしますと、自然への気づきということが、理科的に気づかせていく、その動機づけも生活科の中では非常に大事だということのように考えております。

例えばアサガオの単元ですと、どの教科書にもありますが、多くのところがアサガオを

育てようという気持ちを育てるといいますか、「元気に育てね。」とか、「芽が出たよ。」とか、「もっと大きくなってね。」という投げかけの教科書もあります。例えば教育出版は、「どこから芽が出るのかな。」、「どんなふうに大きくなるのかな。」、「つるはどんなふうに巻きついているのかな。」という、比較的観察的な視点を提示しています。これはとても大事なことだと思っていまして、このアサガオの単元だったら、各社随分違いますが、私は本区の課題を考えた場合に、こうした自然の理科学的な気づきをこの中に込めているということは大事だと思いました。

金子教育長)

宜しいでしょうか。

他にないようでしたら、最後に投票に参りたいと思います。投票用紙の方にご記入をお願いいたします。

<委員投票、確認>

金子教育長)

只今ご確認いただきました通り、過半数を超えるものがございましたので、これで生活についての審議を終了いたします。

それでは、第36号議案の豊島区立学校教科図書採択についての審議に入りますが、初めに、特別支援学級に在籍する児童及び生徒対象の一般図書について、諮っていきたいと思います。その間、教科書の入替えもありますので、休憩を取らせていただきます。9分程休憩を取らせていただきます。

<休憩>

金子教育長)

それでは、休憩前に引き続きまして、まず初めに特別支援学級に在籍する児童及び生徒対象の一般図書について、事務局よりご説明をお願いします。

指導課長。

<指導課長 資料説明>

金子教育長)

事務局からご説明がありました。一般図書を並べてあります。閲覧いただいておりますけれども、最終確認ということで少し時間を取りましょうか。

3分程お時間を取りますので、ご確認ください。

<教科書閲覧>

金子教育長)

宜しければ、ご意見を伺いたいと思います。ご質問、ご意見がございましたらお願いいたします。

村瀬委員、どうぞ。

村瀬委員)

今年はとても変化がありまして、たくさんの本を削除していただいたり、新規で用意し

てくださったりしてしまっていて、進化をしたと思っっているところではありますが、いろいろな障害がある子どもたちがいて、それぞれ違う学び方があると思います。こちらのあいうえおの本を1年間教科書として学ぶということになるのですが、例えば「ろ」、この「ろ」はロバしかなくて、それだけです。また、雪がどういうものであるのかというのは、このイラストだけではとても分かりにくいです。雪が降るところで育っている人はいいですが、なかなか分かりにくいです。教科書として、手元にこれが残るというよりは、実際に写真などを用いて、具体的にした方が良くと思います。いろいろ本があるので難しいですが、障害をお持ちの方だと、写真があった方が分かりやすいですし、今は、タブレットがありますから、ここから発展していけると思います。これだといろいろ偏ってしまうこともあると思うので、保護者の立場や、本人がどれくらい学べるか分かりませんので、たくさん引き出しを持てるような、可能性を広げて、違うことも、少し窓を開けてどんどん興味がある方に向けていってほしいという気持ちもあります。学年は今6年生ですが1年生のものを使うとか、星本を使うというのも良いと思っております。

金子教育長)

他にございますか。

どうぞ、酒井委員。

酒井委員)

私も、村瀬委員が最後におっしゃったように、基本、星本を使うことに賛成です。いろいろな障害の程度はありますので、星本が使えない児童生徒についてはそれ以外の本を教材として使うという考え方で、先程の話も、どうしてあいうえおの本が1年間の教科書になるのかと、非常に疑問に思います。

私が、具体的に疑問に思っておりますのは、一つが、資料で言いますと、66ページの、ナンバー11番の「見て、学んで、力がつく！子供日本地図2022年版」というものですが、要するに日本地図です。日本地図を社会の1年間の教材、教科書として使うというのはどういうことなのだろうと思います。要するに星本ですといろいろな多様な領域を網羅して考えるわけですが。どうもそれが分からないというのが1点。

それから、もう一つ。中学校の、77ページの、番号で言うと3番、「くらしに役立つ社会」は、内容的には非常によく練られたものですが、出版年が古くて、平成19年に初版が発行されております。そうしますと、社会ですので、内容が古いです。例えば、日本の輸出入相手国地域別割合のグラフは、2003年のグラフが載っています。要するに20年前の資料で勉強することは、かえってよくないのではないかと思います。要するに、一般の子供たちは最新版の情報で習っているのに、これを習うと20年前の情報になるというのは非常に問題だと考えてしまっていて、その意味でも、やはり星本の方がまだかなり現在地点に近くなっています。そういうこともありまして、その辺はもう少し精査が必要なのではないかと思います。

金子教育長)

どうぞ、樋口委員。

樋口委員)

これは中学校の美術での継続本です。「工作図鑑」となっていますが、中を見ていただくと、字が小さいです。それから、2色刷り、3色刷りのもので、分かりやすいですかと言われたら、私には分かりにくいとまず思います。なお、これも古いです。2009年です。何回も刷ってはいっていますが、2009年のものです。

もう一つ、例を差し上げます。こちらは英語です。同じく中学校です。これも2004年版です。開いていただくと、こういう状況です。

すなわち申し上げたいところは、4年に1回、教科書採択をこうしてさせていただいて、どの発行者も本当に工夫をなさって、今の子供の実態に応じた、もちろん学習指導要領の基本的なところは押さえながら、子供の実態を加味しながら、紙面構成を考え、色遣い、文字、様々なことを工夫なさっていて、10年前の教科書とはかなり違うと思っております。そうしたときに、これを1年間、この1冊を頂く児童生徒の学びで良いのだろうかというのが、毎回の私の疑問でございます。

今年度、そうした視点を考え直して下さったところはありがたいと思っておりますが、今後ますますそうしていただけたらと思います。

そうしていただきたいもう一つの理由は、特別支援教育が充実してきました。共同及び交流学习もあります。そのお子さんによっては、ある教科を通常の学級で一緒に受けるお子さんもいらっしゃいます。もちろん、そうしたお子さんには通常の教科書という形なのかもしれませんが、私は、今頂ける教科書の中で、その子に応じた部分をもっと充実して指導や支援が出来るのではないかと考えています。どうぞ、そうした意図もお酌み取りおきいただけたら、ありがたく存じます。

金子教育長)

他にございますか。宜しいですか。

何か事務局の方からございますか。

指導課長。

指導課長)

たくさんご意見をいただいたところですが、まず発行年のお話です。一つ、私たちの反省ですが、この見本本が古いということで、渡すときに一番新しいものを渡すようにはしています。申し訳ございません。

それから、66ページの「よみかた絵本」、それから「あいうえおえほん」ですが、これは、大体1年生で使うことがあって、今の時点で来年度入ってくる1年生の状況というのが分からないままこの本を選定しなければいけないところで、最初に、基礎からやらなければならないお子さんにはこれを使ってきたという実績があるようです。「よみかた絵本」に関しては1年生の国語として。「あいうえおえほん」は書写ですので、一つ一つの文字を見るとということでは、大きく書かれているということで採用されているようです。

日本地図のところに関しては、私どもで見ているのは、もちろん、それだけで1年間、日本地図だけで社会科として網羅出来ていないところです。そこから、やはり毎年の傾向として、地図を基に新しい学習に発進出来るお子さんがいるということで、子供の特性を予測するというわけではありませんが、それを入れておくことで、確実に、その本が誰かに渡るといったところではなく、もしそういうお子さんがいたときに、その本が適するであろうということで、一般図書として選定している部分はあります。ですので、長らく使ってなかったというものは、全部省く、削除ということになりますので、どのぐらいの頻度で使っているかということ、それからどんな場面で使ってきたかということ、今後調査研究を続けながら、やっていきたいと思います。

金子教育長)

宜しいでしょうか。

どうぞ、酒井委員。

酒井委員)

1点確認ですが、先程のお話では、例えば先程例に出しました「くらしに役立つ社会」は、ここにあるのは、最新ではなくて、実際に生徒に渡るのは年度の違うものということですか。

金子教育長)

古いということですね。

酒井委員)

古い。2007年発行のものですが、もっと新しいものがあるということですか。

金子教育長)

今、目の前にあるものではないものですかという確認ですね。

指導課長。

指導課長)

最新の発行、重版されたり最新版になっているものというものがあるときには、それです。

金子教育長)

では、あるかどうかは確認しないと分からない。

指導課長)

はい。そうです。

酒井委員)

そうしましたら、この場で最新版の見本本として出していただかないと、判断が出来ないですが。

金子教育長)

ということですよ。

どうぞ、樋口委員。

樋口委員)

以前にもお話したかもしれませんが、資料のところは何年版というのをに入れていただければ。一般図書ですから、毎年必ず重版しているわけではないですから、何年か前になってしまうものもあれば、去年のものもあるのです。そういうことを工夫なされると、そこはクリア出来るのではないかと思います。

金子教育長)

指導課長。

指導課長)

おっしゃる通りです。以前入れていたことが一回あったのに、消えていたのが、こちらのミスです。

金子教育長)

入っていましたね。もう一度入れるようにしてください。宜しくお願いします。

酒井委員。

酒井委員)

すみません、お伝え忘れしました。日本地図の方ですが、これを基にいろいろ学習が展開される、そういう指導があるということはよく分かるのです。これを使って、どのように1年間の指導をされたのかということを事後でも結構ですので、基本的に単元構成として、1年間どういう学習になったのかを、是非教えていただきたいと思います。

金子教育長)

指導課長。

指導課長)

調査研究の際に確実に、この本についてどんな使用方法だったかということを出していただけるように指導していきたいと思います。

酒井委員)

お願いいたします。

金子教育長)

特に今回ご指摘にあったようなもの、それからそういう傾向のあるものについては、必ずそのようにお願いいたします。来年、是非お願いいたします。

他にございますか。宜しいでしょうか。

では、いろいろなやり取りがございましたが、これにつきましては、A社、B社ということではないので、一括して了解するかどうか。ただ、いろいろなご意見を今聞いていただきましたので、是非来年度にはそれを反映していただくということで、私からもお願いしたいと思います。

それでは、只今のご説明によりまして、資料に記載の一般図書については、採択ということで宜しいでしょうか。ご異議ございませんか。

(委員全員了承)

金子教育長)

では、十分ご意見について踏まえていただくということを前提に、報告を了承し、採択をいたしたいと思います。宜しくお願いします。

次に、小学校教科用図書採択結果について、事務局よりご説明をお願いします。

指導課長。

<指導課長 資料説明>

金子教育長)

只今、事務局から、小学校教科用図書について、その採択結果のご説明がありました。これにつきまして、改めて各委員よりご意見がございましたら伺います。宜しいですか。

それでは、先般の審議結果を踏まえまして、資料に記載の発行者の教科書を採択いたしたいと存じます。ご異議ございませんでしょうか。

(委員全員異議なし 第36号議案了承)

金子教育長)

ご異議なしと判断いたします。それでは、豊島区立小学校教科用図書採択結果一覧を了承し、採択をいたしたいと思います。ありがとうございます。

最後になります。本年度の教科書の採択の終了に際しまして、私から一言申し上げさせていただきます。

委員の皆様、事前の熱心なご閲覧も含め、知見に基づいて様々なご意見をいただきまして、本当にありがとうございます。どの教科書会社も非常に様々工夫を凝らしていただきまして、すばらしい教科書を作っていただいていると思っております。全ての教科書関係の皆様に対し、改めて教育委員会を代表し、お礼を申し上げます。

加えまして、審議と採択の両日にわたる教育委員会を傍聴いただきました皆様、また、過日開催いたしました教科書展示会におきまして、熱心に教科書を閲覧いただきまして、ご意見を寄せていただきました皆様にも、この場を借りまして併せて御礼を申し上げます。

長時間にわたるご審議ありがとうございます。豊島区の子供たちのために、適切な教科書の審議、採択を行うことが出来たと考えております。

以上をもちまして、第36号議案の審議を終了いたします。

事務局、連絡はございますか。

庶務課長。

庶務課長)

事務局の方からご連絡いたします。本日配付いたしました資料でございますけれども、事務局の方で保管をさせていただきます。恐れ入りますが、そのまま机上の方に置いていただければと思います。

以上で審議を全て終了といたします。

金子教育長)

それでは、全て終了となります。ありがとうございます。

(午後 1 1 時 4 2 分 閉会)